

## バヨン監督と阿寒コタンへ ラファウ・ジェプカ

2023年11月18～21日、有名なポーランドの映画監督フィリップ・バヨン氏がアイヌ文化をより深く理解するために北海道を訪れました。将来、資金を調達できれば、極東の諸民族や文化、特にアイヌの研究者として知られるプロニスワフ・ピウスツキの人生を描く長編映画を作ろうと考えています。

バヨン監督は、母校であるアダム・ミツキエヴィチ大学のアルフレッド・マイエヴィチ元教授と親交があり、アイヌとピウスツキに関する多くの情報を交換してきました。教授は樺太アイヌの歌を録音した蠟管の発見の歴史にも詳しく、彼の知識が映画の脚本に大きな影響があります。



摩周湖で北海道の自然の中のシーンのアイデアを語るバヨン監督とグット撮影監督

### 阿寒コタンで

11月18日(土) 監督一行を釧路空港で出迎え、レンタカーで阿寒に向かいました。コタンの土産物店でマリモの瓶などを購入した後、アイヌ工芸品店のオーナーで、アイヌの舞踏や儀式の演技者でもある西田さんに会いました。

これはポーランドの映画クルーとアイヌの方との



〈左から〉バヨン監督、西田さん、キシユカさん、ムルズさん、グット監督

初めての出会いで、聞きたいことがたくさんありました。西田さんは自分の家族について語り、グット氏にムックリ(アイヌの口琴)の演奏を教え、

アイヌ語でいくつかの言葉話を話してポーランド人ゲストはそれを録音しました。

バヨン監督は、彼の映画でピウスツキの写真と同じ姿でアイヌを撮影し、役者がアイヌ語で会話することを望んでいます。予算ができれば北海道でのシーンも含めた壮大な映画を撮りたいそうです。



バヨン監督(イコロ劇場にて)

夕食後、私たちは2つの公演——アイヌ舞踏の披露と、北オオカミについての、現代のダンスとデジタルビジュアルを融合した物語——を観ました。公演の後、ムルズさんとキシユカさんは、イコロ劇場の若手スタッフとアイヌの血筋のアイデンティティについて話し合いました。

### 摩周湖～硫黄山～

#### 屈斜路コタンアイヌ民族資料館

翌日は一行を摩周湖に案内しました。この湖は地元のアイヌにとって重要な場所ですが、鋭い寒風のため長時間の写真撮影は難しく、湖は絵葉書ほど青くはなかったものの、映画製作者たちはこの場所の景色と自然に感動しました。

次は硫黄山を訪れ、火山を手で触れるほど近くでみて感動しました。その後近くの川湯温泉で評判の高い「お多福食堂」に向かい、ゲストたちは美味しい肉井やチャーハン&ラ



バヨン夫妻&キシユカさん(硫黄山にて)

ーメンや蕎麦セットを一緒に楽しみました。彼らはまた、この昔ながらのレストランの内装を称賛しました。壁にはポスターや賞状、写真が掲示され、棚には剥製の動物やマンガが並んでいて、訪れた外国人には非常に魅力的だったようです。店主はグット氏がお相撲さんを描いたポスターに興味を持っているのに気づき、昨年秋場所のポスターをプレゼントしてくれました。

最後の訪問地、弟子屈町の屈斜路コタンアイヌ民族資料館では、狐が神に捧げられる儀式を描いた映画を見て、昔のアイヌの生活を知るため、そこで収集された資料、道具や工芸品を見て多くの時間を過ごしました。

4人が札幌に到着したのは22:30すぎでした。翌日(月)は神威岬に向かい、(火)にはウポポイ博物館を訪れ、伝統的なアイヌの踊りを観賞し、佐々木博物館長や野本部長と面会して、11月22日(水)に帰国しました。

(Rafał Rzepka)

※バヨン監督一行のプロフィールは次ページをご覧ください

- ◆フィリップ・バヨン 1947年生まれ。ポーランドの小説家、脚本家、映画・劇の監督。映画芸術の教授、映画制作スタジオ「カドル」所長。数十本の映画や劇を演出し、プラチナ・ライオン功労章やポーランド復興勲章を含む約30の賞を受賞
- ◆マジェナ・ムルズ=バヨン ジャーナリスト、旅行家、写真家。雑誌「ビジネストラベラー」編集長。私生活ではバヨン監督の妻
- ◆ウカシュ・グット 1980年生まれ。ポーランドの映画監督・撮影監督。グディニア・ポーランド映画祭のゴールド・ライオン大賞およびポーランド映画賞を受賞。彼の映画「Broad Peak」は日本のNetflixで視聴できる
- ◆イザベラ・キシユカ=ホフリク 2005年からポーランド映画芸術研究所職員。国際協力部門責任者、映画制作とプロジェクト開発責任者などを歴任、2017年10月から同研究所所長代行

**2024 SAPPORO SNOW FESTIVAL** **2024 SAPPORO SNOW FESTIVAL** **2024 SAPPORO SNOW FESTIVAL**

4年ぶりに開催された 第48回国際雪像コンクール (2024/2/3~7)

ポーランド・チーム  
出場!

国際雪像コンクールには9か国が参加し、優勝に輝いたのはモンゴル・チームでした。ポーランドは残念ながら表彰台に上がることはできませんでしたが、日本でも評価と人気の高いボレスワヴィエツ陶器になみなみ入ったインクの中で月を釣ろうとしている「クレクス先生」を象った独創性あふれる雪像を制作して、見学に訪れる人々を大いに喜ばせました。



〈左から〉オスミツカ所長&チーム  
E・ゲッペルト記念美術アカデミー  
(ヴロツワフ市)の3博士たち  
アンナ・コウォジェイチク、  
ダニエラ・タゴフスカ、  
プシェミスワフ・ピントル  
〈右端〉当協会の安藤会長



『クレクス先生のふしぎな学校』のおかげで、クレクス先生はもう日本の子どもたちにもおなじみのキャラクターですね。ヤン・ブジェフファ作のこの児童書は、小椋彩さんの翻訳で2023年に小学館より出版されました。\*

(ポーランド広報文化センター所長  
ウルシュラ・オスミツカ)

雪像「童話の偉大なるハンター」の解説から

この雪像は、ポーランド童話のユニークな登場人物、クレクス先生を描いたもので、ティーポットの縁に座り、カップ（インクで満たされているのであろう）から笑顔の月を釣り上げて皆に見せています。このポットとカップは、ボレスワヴィエツにある最も有名なポーランド陶器メーカーの製品を基にしています。童話は最も魅力的で美しい世界共通の文化です。



北海道医療大学  
ルブリン国立医科大学  
交流協定を締結



交流協定締結式にて

北海道とポーランドとの間の協力関係の促進は重要といえます。そこで、私たち(シルヴィアと夫・佐藤)が北海道医療大学に勤務し始めた2016年に、ルブリン国立医科大学歯学部との関係構築を始めました。ルブリン国立医科大学は、ポーランドで最大の国立医科大学の1つに数えられます。医学、薬学、歯学、健康科学などの学部があり、それぞれ専門の医療従事者を育成しています。

この関係構築に関わった全ての人たちの尽力により、北海道医療大学歯学部とルブリン国立医科大学歯学部との間で学部間協定を結ぶことができました。しかし、残念ながら、その直後の新型コロナ感染拡大により共同プロジェクトや学術・学生交流は中断されてしまいました。

そして、2023年に入り、ようやく薬学部との連携拡大を皮切りに交流が再開されました。その結果、2024年3月、薬学部を通じた大学間の協定が結ばれました。今後、他学部も含めた大学レベルでの学生・教職員の連携・交流の拡大が期待されます。

(シルヴィア・オレーヤージュ&佐藤圭史)

\* [http://hokkaido-poland.com/POLE/POLE109\\_p14BooksPanKleks.pdf](http://hokkaido-poland.com/POLE/POLE109_p14BooksPanKleks.pdf)